

国際交流事後活動ニュース

MACRO COSM

講演 魅力ある国日本とは 石川忠雄
速報 総務庁青少年国際交流事業の募集

マクロコズム '98.3



vol. 21

(財)青少年国際交流推進センター



▲ 出航式で青年を激励する熊代政務次官

参集国シンガポールで橋本総理大臣のメッセージを代読する久山青少年対策本部次長



第24回東南アジア青年の船

— 1997. 9. 22 ~ 11. 20 —



ホームステイマッチング (シンガポール)



▼ ナショナルプレゼンテーション・デイ

「東南アジア青年の船」は、昭和49年（1974年）の日本と東南アジア諸国との共同声明に基づいて始められた事業です。昭和60年（1985年）の第12回からはブルネイ・ダルサラームが加わり、第23回には、ヴェトナムがアセアン加盟に伴って正式参加国として加わりました。

「第24回東南アジア青年の船」は、東南アジア10か国（ブルネイ・ダルサラーム、インドネシア、

マレーシア、フィリピン、シンガポール、タイ、ヴィエトナム、ラオス、ミャンマー、カンボディア）の青年312名と日本の青年45名、計357名が約60日間にわたって船内で生活を共にしながら、参加国を訪問しました。船内では、ディスカッション、各国事情の紹介、スポーツ、クラブ活動などを行い、訪問国では、その国の青年との交流、ホームステイ、施設見学、奉仕活動などを行いました。



◀ スポーツレクリエーション

▼ ディスカッション



日本の文化を伝える

伝統文化には、その国の心が伝えられています。日本の文化の素晴らしさを改めて認識しながら、一生懸命伝えました。



◀ 練習の成果をアセアン青年にも伝えたい

▼ 茶道の楽しさを知って欲しくて



◀ 剣道の精神を学ぶ



日中国交正常化25周年記念

中国青少年指導者等招へい (1997. 12. 4 ~ 12. 13)

日中国交正常化25周年を記念して、昨年12月に19名の中国青少年指導者等が総務庁青少年対策本部によって招へいされた。事業の実施に当たっては、日本青年国際交流機構のメンバーで実行委員会を構成し、東京と沖縄において受入を行った。

東京では、「日中青年国際交流会議」を開催し、(財)青少年国際交流推進センターの石川忠雄会長の基調講演とテーマ別の分科会という構成で、今後

の日中関係について意見交換を行った。

今回の受入により、日中青年親善交流の日本既参加青年の縦の繋がりが強まり、国内での連携意識がより高まったことは、今後の交流促進に大きな力となるであろう。

沖縄においては、2泊のホームステイを含めた心温まる交流プログラムが生まれ、招へい青年達は楽しい実りある経験をすることができた。

(P.21 参照)



- ◀ 劉団長、孟副団長、万秘書長が、招へい団を代表して額賀官房副長官を官邸に表敬訪問 (左より万秘書長、劉団長、額賀副長官、孟副団長、久山青少年対策本部次長)

▼ 基調講演を行う石川会長

日中国交正常化25周年記念
日中青年国際交流推進会議
主催：総務庁青少年対策本部 / (財)青少年国際交流推進センター



- ▲ 分科会は3つのテーマで行われました

富士通の沼津工場でコンピュータの最先端技術を見学 ▶



「日中青年国際交流推進会議」基調講演要旨

魅力ある国日本とは

慶応義塾大学名誉教授
 (財)青少年国際交流推進センター会長
石川 忠雄



今日は、日中国交正常化 25 周年記念事業として、中国から青年指導者 19 名の方をお招きしていますので、「魅力のある国日本とは」という題でお話をしたいと思います。

私は、日中間の友好、平和な関係が続くことが日本にとっても良いことだし、中国にとっても良いことだし、アジア太平洋の安定にとっても良いことだし、世界の国際政治にとっても良いことだと、考えております。したがって、日中間の友好関係をできるだけ持続したいと思っています。

友好関係を持続するために日本にとって大変必要なことは、日本は中国が友好関係を持続したいと思うような魅力を持った国でなければいけないということです。日本と友好的な関係を持続することが中国にとっても利益がある、そういう魅力を日本が備えていないといけません。これは日中間

係だけではなく、国際社会の全体についても言えると思います。

そういう国を造るのには、私は二つの条件が非常に大事だと思っています。

〈有言実行〉

その一つは、日本が過去の制約から離れて、それを変革して、活性化をして、内外政策とその基盤をはっきりと、外に向ってしっかりともの言うことのできる国であるということです。

日本は、戦後今までやってきたいろいろな社会、政治、経済のシステムをここで思い切って変革しなければ、次の発展に繋げることができない。日本自体を改造、変革しなければならない。そして、それに基づいて、日本はこれから国内に対して、世界に対して、どういうことをやるのだという政

主 要 内 容

魅力ある国日本とは …………… 5～11	のりのり岡山青年国際交流会 …………… 16
(財)青少年国際交流推進センター会長 石川忠雄	雪乃ちゃんの北京おもしろ観察記 …………… 17
世界に友達を作ろう …………… 12～13	ブロック大会 …………… 18
総務庁青少年国際交流事業	全国大会=IYEO の魅力 …………… 19
平成10年度参加青年募集概要 …………… 14～15	お知らせ …………… 20

〈表紙の説明〉

「第8回世界青年の船」
 ～上岡弘二団長 写真展～
 “青春群像'96”の作品より
 左から、南アフリカ、アラブ
 首長国連邦、ケニアの青年

策、なぜそうするのかという理由を、明らかにしていくことが必要だと思います。

もう一つは、その政策を言葉で言うだけではなくて、現実に行う努力をすることです。つまり、考え方と実行という二つのことが非常に大切なのです。今まで、この二つの要素が不明確であったり、あるいは政策を遂行する時にタイミングを誤ったりするということがあったために、世界から日本は顔の見えない国であるとか、良く分からない国であるとか言われてきたのだと思います。ですから、私は、考え方をはっきりさせることと、それをしっかり実行するということがあって初めて日本の国際社会における地位が確立されると思っています。

そういう観点に立って、いったいどういうことを国家目標に掲げるか。これが日本が魅力ある国になるための私の方策です。

最初に国際社会に関する目標ということでお話をしたいと思います。

I. 平和の追求と安全保障

第一の点は、日本が世界の平和と安定と繁栄を追求する国家として、その目標が達せられるように国際社会にできるだけ貢献をするということです。



日本は国土が狭く、資源の乏しい国家です。そういう日本が現在の世界の中で独立と安全と繁栄を維持していくためには貿易立国以外にない。日本が貿易によって国を立てるという性格の国であるかぎり、この国は、世界の平和と安定に協力する、それを促進するというを非常に大切に考えなければならないということになると思います。

日本が自分の政策をはっきり主張し実行する。そのためにはまずその前提として安全保障が基本的な条件であることは言うまでもありません。国としての存立の基礎ですから、これはしっかりしていないといけません。日本は軍事大国になる必要はないし、なるべきでもないけれども、安全保障体制はしっかりしていないといけません。その基盤は日米安全保障条約にあると思うので、これが有効に機能することを考えなければならないと思っています。

国家というのは国民の利益を守るために存在している。だから、国家には利己的な性格があります。自国の利益を国際社会の中で実現するには、国際社会におけるパワーポリティックスの感覚が大事になります。ところが、日本は第二次大戦後アメリカの庇護の下にあった関係上、このパワーポリティックスの感覚が非常に鈍くなってしまった。日本が今後魅力的な国家になるためには、この感覚をもう一度取り戻すことが大事だろうと思います。

現在、安全保障の体制を作る方法としては三つあります。その一つは国際連合を利用すること、二つめは地域的安全保障体制を作ること、三つめは日米安全保障体制ということになります。この三つを重ねることによって、日本の安全を守るこ

とを考えなければいけないと思っています。

まず、国際連合ですが、冷戦構造が崩壊して、米ソの協調により安全保障の機能がだんだんと働くようになってきてはいます。しかし、万全に機能しているかと言うと、そうはいかない。ソマリアとかボスニアの例からもわかるように、国連の機能は万全とは言えない。そうなると、国連にだけ依存して国際社会の平和と安定を維持するということは難しいということになります。

その次に考えられるのは地域的安全保障です。アジアにも地域的安全保障の体制を作ったかどうかという議論がありますが、実現するのは容易ではない。中国と台湾、北朝鮮と韓国の問題もあります。領土的な問題としては、南沙群島、尖閣列島、竹島の問題もある。こういった矛盾対立を孕んでいる国が全部一つのところに集まって、安全保障体制を作るということはなかなか容易ではない。もちろん努力はしなければならないが、それだけでも十分ではない。

したがって、日本にとって安全保障の点で重要なのはやはり日米安全保障体制ということになります。この日米安全保障条約というのは単に日本とアメリカだけの問題ではなく、広くアジア太平洋地域全体に安定感を与えていると思っています。日本は国連の平和行動に対しても協力しなければいけませんし、アジアの地域的安全保障体制の樹立についても努力をしなければいけない。アセアン地域フォーラムのようにアジアの国々の軍事力を透明にしていくための機能も大切です。中でも、日本は日米安全保障条約をその基礎において、アジア地域の平和と安定のためにできるだけ努力をするということが大切だということ、これが日



本の立場を明確にすると同時に日本を魅力的な国家にさせる一つの基盤であると考えています。

II. 発展途上国の支援と固有文化の尊重

第二の点は、発展途上国の繁栄を促進する、あるいは支援する上で貢献をしなければならない国家であるということです。一口に近代化と言いますが、いわゆる西洋的な近代化がただ一つの形であるということはない。アジアの国を例にとっても、いろいろな意味での伝統的、固有の文化をそれぞれ持っている。仮に資本主義体制を受け入れるとしても、国によってさまざまな受け入れ方があります。日本は、その国の持っている文化を通じて受け入れられた近代化の姿を尊重しないとイケない。その国の持っている特質、多様性を尊重しながら、発展に協力をしていくということが大事です。

ただ、日本はどうかということになれば、基本的人権を尊重するような近代化だということ、これは認めなければならない。中国の基本的人権の考え方は、アメリカ流の基本的人権の考え方とは明らかに違います。シンガポールにはシンガポールの考え方があります。その中で、日本は基本的人権を尊重する国なのだというをはっきりさせておかなければいけないと思います。

Ⅲ. 地球規模の課題への取組み

第三の点は、日本は環境とか人口とか資源というグローバルな問題について、その解決に積極的に協力する国家であるということを示すべきであると思います。この点は日本政府は比較的はっきりとその立場を明らかにしています。実行が十分かどうかという問題がありますが、考え方としては割合にはっきりしています。ただ、これを実際に行っていくためには、これまでの進歩を支えてきた大量生産、大量消費、大量廃棄という考え方は、根本から反省する必要があると思います。

国際的にはだいたいこの三点だと思いますが、国内的には四つくらいの大きな目標があると思います。

① 考える力

第一は、日本の国民というのは個々の人間の集合体ですから、日本人一人ひとりの品格が尊敬に値するものでなければならない。また、日本人が高い知的水準を持った人々から成り立っているということが必要です。第二次大戦後、日本がアメリカの庇護の下におかれて、アメリカに依存しているうちに、甘えの構造というものが生まれてきた結果、権利に対する責任の問題とか、他者の尊重、思いやりがなくなってきた。一時期、「日本はエコノミックアニマルだ」とか「一国平和主義」と非難されましたけれども、自分の利益だけを中心にものを考えるという考え方は改めなければならない。当然、他の人のことも思いやる気持がなければならない。これは個人と個人との関係ばかりではなく、国と国との関係においても同じです。個人にとってみれば、それは個の独立ということ

になると思うのですけれども、それはこれからの日本の教育が担っている一つの大きな課題であろうと思います。

日本の教育は、明治以来、最近に至るまで、一つの非常にはっきりとした特徴を持っていました。この時期の、つまり西洋の近代化に追いつく時期の教育の力点は、ものを知ることにあります。なぜならば、既に近代化を成し遂げた先進国があり、それはまさに日本の近代化のモデル、お手本になる国です。ですから、そういう国の国民が近代化について何を考え、何をやってきたを知ることが非常に大切だったのです。西洋の思想と経験に学んで、その方法を使って近代化をやることのできるからです。ところが最近になって、時代が変わった。日本の近代化が、少なくとも物質的な側面では、成熟期にきた。日本は近代化の最前線に出た。したがって、近代化の後にはどういう目標を作ったら良いのか、どのようなやり方でやったら良いのか、自分の力でその道を見つけなければならない。そうすると、ものを知る力よりも、ものを考える力の方が大事になります。ですから、日本の教育は、このものを考える力を強くする教育にこれから変わっていかなければならない。そういう人が多ければ多いほど、日本は国際社会でも尊重される国になる。魅力を持った国になるのだと私は思います。

② 科学技術力

第二の目標は、高度に発展した科学技術を持つということです。世界の国々は、科学技術の発展を基礎にして、近代化をより発展させたいと考えている。発展途上国においても、先進国において

も同じです。日本を魅力的な国家にするためには、科学技術の進歩について強力な地位を持ち続けなければならないということになります。そのために、まず、日本の科学技術の発展の水準はどこにあるのかということをはっきり調査して結論を出さないといけないと思います。最近、科学技術の分野で、戦略研究という考え方が出てきました。10年先20年先の日本と世界の科学技術の在り方を予測して、いったいどの分野に一番多くの研究費を投じるかということを考えるやり方です。いろいろな人に意見を求めてみますと、誰でもが答えることが三つあります。情報、バイオテクノロジー及び環境です。私は、環境破壊の問題に対応するということは非常に大事だと思います。今までの経済開発は大量生産、大量消費、大量廃棄が進歩であるという考え方に立っていました。この進歩主義を根本から反省しなければならないほど、環境破壊が進んでいる。科学技術の進歩には光の部分と影の部分があります。環境破壊というのは、その影の部分の最たるものですから、これを解決する科学技術の領域を考えていかなければいけないと思います。

③ 経済力

第三番目の目標は、強い経済力を持つことです。日本が国際的に貢献し、各国の国民生活を繁栄に導く重要な要素は、日本の経済力ですから、日本の魅力として、それを作り上げなければいけない。今の不況には景気循環的な側面と構造的な側面の二つがあり、この両方共に解決しないことには日本は21世紀に向けて強力な経済力を持つという展望を切り開いていくことはできないと思うので

す。構造的制約要因というのは、戦後日本の発展を支えてきた政治、経済、社会のシステムが行き詰まって、それを変革することが必要であるということです。今の経済活動は国境を越えて自由に行われている。情報もそうです。世界的な分業体制も再編成されつつある。海外投資が盛んに行われ、産業の空洞化が進んでいる。このボダーレスに行われるメガコンペティションの時代を勝ち抜いていくには、体質の強化が必要になるから、当然今までのシステムは変えなければならない。今までは協調的、閉鎖的、保護主義的、集団主義的な経済社会の枠組が日本を支えてくれた。今日ではそれが経済発展の制約条件になっている。新たな分野で新たな成長産業を開拓する努力が必要です。既存の産業でも、生産性の低いものを高い生産性のものすることも大切です。この仕事はなかなか容易ではないけれども、それをやらないと日本の経済は強くない。今の日本の大きな問題です。

④ 参加と受容

第四の目標は、日本の異文化の受け入れ方の問題です。明治維新後の国家目標は西洋文明を受け入れて、日本の近代化を実現して、日本を独立な強力な豊かな国家に作り上げることでした。私は、日本は西洋文明を世界の中で最も柔軟に受け入れた国家だと思います。しかし、日本が西洋文明を受け入れるにあたって、西洋文明をそのままそっくり受け入れたということはない。日本人としてのアイデンティティーのぎりぎり限界のところでは、日本は選択的に西洋文明を受け入れている。西洋文明を受け入れることによって、日本人の持

つ伝統的な文化は変容したけれども、同時に受け入れた西洋文明も日本の伝統的な文化によって変容された。ここに定着している西洋文明とは、日本的西洋文明であって、決して元のと通りの西洋文明ではない。アメリカでよく「日本異質論」が言われますけれども、日本とアメリカとの資本主義の中には違うところもたくさんある。これを見つけるのはそんなに難しいことではない。これは何も日本とアメリカの間だけではない。他の国との間にも同じ部分と違う部分とが存在する。その国固有の文化を尊重するというは、お付き合いの上で大切です。けれども、経済活動も情報も国境を越えて世界中で動いている時代ですから、世界各国で通じる共通のルールは存在しなければいけない。日本は、その共通のルールを作ることに貢献していかないといけない。同時に、作られた共通のルールに対して、日本社会はもっと開放

的でなければいけない。そうでないと、世界の経済の中で尊敬される地位を保つことはできない。参加と受容ということが日本を魅力ある国にする上で重要と考えています。

〈政治体制の重要性〉

この四つの目標を実際に実行できる機能は何かということ、これは政治の問題です。政治がきちんとしていないと実行力を伴わないということになります。政治の体制がどういう体制であつたら良いか。私は、戦後の政治の在り方から考えてみて、やはり二大政党制に近い制度が良いと思います。戦後、自由民主党が38年間、一党支配を続けた。長い間政権の座に就いていたために、奢りも出てきたし、活力が失われ、更には腐敗が日常化していった。もし、次に代わる政党があつて、政権党を絶えずきちんと監視していたら、そのような腐

～中国青年の受入を続けて～

参加青年から与えられるもの・与えるもの

平成8年度中国派遣団
渡辺 香里

私たち日本青年が中国青年から与えられたものはたくさんあります。東京を案内して改めて自分がいかに東京のことを知らないかが分かります。参加青年と話していて、改めて自分がいかに日本のことを知らないかがわかります。中国側の皆さんが日本についてもっと知りたいという願いにお応えしたいと思います。もちろん、お互いの年齢差もあり知識の差も自ずとあるか

もしれません。だからといって、私もここであきらめずに日本について知識を深めて自分なりの意見も持ちたいと思います。このように何かを始めたいというきっかけを与えてくれたのも、中国の方々と接してきたことによります。

もう一つ、私に大きな影響を与えてくれたものは、頑張っている女性の姿です。日本に来る中国代表団の中に数は少ないのですが女性の方がいらしゃいます。その方たちは、ご主人や子供もいるのですが国外へ代表団メンバーとして日本にやってきました。当然国内では仕事も持っていて一定の地位に就いています。日本ではこのような機会を得る方は比較的少ないのではないのでしょうか？でも、彼女たちは中国だからこのような機会を得

〈終わりに〉

敗も起こってこない。大きな失敗があった時に、どこに責任があるか、政治権力は変わるべきか変わるべきでないかということを経験者が判断することができることは非常に大事なことではないかと思えます。もし代わるべき政党があって、その政党が安全保障、外交、自由経済体制について相通じるところを持っていれば、選挙をする人は安心して反対側の政党に票を投じることができるようになる。そういう意味で、日本は二大政党制に近い制度をとったほうが良いし、政策の実行力も強くなると思えます。日本はつい先頃小選挙区比例代表並立制に変えましたが、もし二大政党に持っていきたいのならば、比例代表の数を思い切って削った方が良く考えています。いずれにしても、選挙制度については、実行力の源ですから、日本はもっと真剣に考えなければいけないと思えます。

ひととおり、日本の姿を描いてきましたが、私が中国の皆様を知っていただきたいことは、日本という国は、第二次世界大戦以前とは違って、貿易立国の国是を持った国なのです。それ以外に生きることにはできない。そういう体質に変わった。ですから、国際的にも日本という国は平和と安定を欲する国なのです。そういう国柄なのだということをよくご理解いただきたいと思っています。もし、日本がこういう形で今後も努力を続け、発展していけば、私は日本の側からする日中の平和的友好関係は発展するだろうと思っています。その後の問題は、中国がいったいどういう国になるかということだろうと思っています。いずれ、それはまたそれでお話を承りたいと思っています。

ありがとうございました。

ることができたわけでもないと思えます。努力とやる気が伺われます。日本も女性の努力とやる気を認めることのできるシステムが今以上に整えたいと思えます。

では、逆に日本側から与えたものとしては何が考えられるでしょうか？まず、私たちは普通の日本人がどのように生活をしているか、どのように考えているかを少しでも伝えられたのではないかと思います。中国青年はどちらかと言えば標準よりも少し高いレベルの人たちが多くかと思えますので、その意味で一般の日本人の普段の姿が見せられたという気がします。

最後に、国際交流という面からは少しはずれるかもしれませんが、日本人どうして与える影響も

大きいと思えます。国際交流とか人との付き合いが好きという点では共通点がありますが、社会人も学生もいればその専門分野も様々です。普段の生活ならあまり知り合う機会がないような人たちにも出会うことができました。みんなそれぞれ魅力的で大好きな人たちばかりです。みんなと話すうちに刺激をうけたり、逆に自分はいこう思っていたんだと改めて気付くこともありました。

今回の受入の分科会では「今後の同窓会活動について」というテーマも取り上げられたので、これからの交流がますます盛んになるような方向を考えていきたいと思えます。

総務庁青少年国際交流事業（航空機による青年海外派遣）報告会

世界に友達を作ろう

～ 終わりになき友情の始まり ～

平成10年1月25日（日）、東京の国立オリンピック記念青少年総合センターで平成9年度総務庁青少年国際交流事業のうち、「国際青年育成交流事業」（ブラジル、ドミニカ、ドイツ、ネパール、カナダ、ヨルダン、インドネシア、ジンバブエ）、「日・中青年親善交流事業」、「日・韓青年親善交流事業」の帰国報告会を行いました。

平成9年度参加青年、141名中約90名が再び東京に集まり、旧交を温めるとともに、一般の方々に派遣国の事情を理解してもらうべく、報告会に臨みました。

○プログラム

今回の報告会のプログラムは、昨年に引き続き5か国ずつ、2回に分けたグループミーティングを中心としてその前後にアピールタイムを中心に構成しました。

〈展示ブース及びグループミーティング〉

各団とも、派遣期間中に手に入れた様々な品物、写真、地図、民族衣装などを並べ、派遣国の様子が目で楽しめるような展示ブースを設け、それを囲んで民族衣装を身につけた団員が派遣国の事情や自らが得た様々な体験をお話しました。



〈アピールタイム〉

ツアーコーディネーターを装い自分の派遣国に、会場にいらした方々全員を派遣国へ招待する団、民族衣装を着てダウンタウンの日常を再現した団、派手めのアクションを交えて自分の経験を語る団など様々な趣向をこらした演出をしました。



IYEOの事務所で準備する実行委員 ▶

新しき仲間との出会い

平成9年度ジンバブエ派遣団
村上 賢司

「アテンション プリーズ」のアナウンスが流れ、僕らの（航空機による青年海外派遣団）の報告会が始まった。「世界の車窓」という各団における3分間スピーチ（主にカルチャーショックなどの印象に残った事の発表）による時に流れた「ドウゴゴ」の飛行機離陸時を表す効果音は良かった。「シートベルトをしなくちゃ」という声が聞こえてきそうだった。いや聞こえてきた。

3分間スピーチにおいては、各団奇策を練ってきて、まるでショー・コントを見ているようでさやかな笑いが得られた。特に、中国派遣団のアニメのような展開の速さの面白さ、それと韓国派遣団のテレビドラマでも見られないような強引な韓国語会話講座はすごく印象に残った。「地球の迷い方」（分科会）は、多少45分間をどのように

使えばよいのか？という戸惑いもあったが、各団ブースを見れば色々な色があり、文化祭のような和やかな雰囲気があり良かった。

少々予定通り行かなかったということと、一般参加者が少なめであったことは反省点だが、基本的にはうまく行ったと思うし、僕自身楽しめた。この帰国報告会が成功できたのも、参加団員が多く集まり、朝早くから会場設営と雰囲気の盛り上げに協力してくれたからであり、又、実行委員の皆が11月から、細部に渡る計画と準備をしてきたからだと思う。実際、実行委員会は少ない時間で多くのことを決定するために、実行委員個々が自分の時間の中で考えてきたユニークなアイデアを出し合い着々と進んできた。

そして何よりこの帰国報告会で最も印象に残ったことは、やはり、めったに会えない団員に会えたことだと思う。帰国報告会は、その表舞台もちろん大切だが、それ以上に、その裏舞台に真の意味と楽しさがあるのだなと思った。



総務庁青少年国際交流事業の参加青年募集

総務庁の行う青少年国際交流事業は、日本と諸外国の青年の交流を通し、相互の友好と理解を促進し、広い国際的視野と国際協力の精神を有する次代を担うにふさわしい青年の育成を目指しています。

全国の青年の皆さんが、この事業に積極的に参加し、帰国後もその経験をいかして地域、職域、学校又は青少年団体等において国際交流活動、青少年活動などを活発に行い、社会に貢献されることを期待しています。平成10年度の事業概要、応募資格等は次表のとおりです。

		航空機による青年海外派遣										世界青年の船		東南アジア青年の船			
訪問国等		方外	テマ	ドニ	マラ	ドク	インド	マラ	インド	中国	韓国	カ	オ	マ	マ	マ	マ
実施時期 (期間)		平成10年8月～9月										平成11年1月～3月		平成10年9月～11月			
募集人員		各約8人										一般	一般	約120人		約35人	
資 年 格 年 齢		20歳～30歳 (昭和22年4月2日～昭和53年4月1日に出生)										一般		20歳～29歳 (昭和23年4月2日～昭和53年4月1日に出生)		18歳～30歳 (昭和22年4月2日～昭和55年4月1日に出生)	
要 件	青少年活動等	帰国後もその経験をいかして国際交流活動、青少年活動等を活発に行える者															
	語学力	交流活動を行える英語力を有すること。					訪問国の公用語による簡単な日常会話能力が求められる。					交流活動を行える英語力を有すること。					
	その他	国の行う同種の事業に参加したことのある者は応募できません。															
研 修	事前	7月上旬の約5日間										8月下旬の約5日間		7月中旬の約6日間			
	出発前	出発直前の約2日間										出発直前の約3日間		出発直前の約2日間			
	帰国後	帰国直後の約2日間										帰国直後の約2日間		日本国内活動直後の約2日間			
個人負担額		約7万円										約27万円		約20万円			
		(内訳) 研修費(事前、出発前、帰国後)、船内共食費(船内のみ)、渡航手続費用、旅行保険料等(上京・帰国旅費は、別途負担となります。)															
※ 航空機による青年海外派遣のうち、中国、韓国派遣については、一般員とは別枠、渉外員各2人(おおむね25～35歳、訪問国の公用語(中国語又は韓国語)に堪能な者)も募集しています。渉外員は、参加選考を伺いません。																	

総務庁青少年対策本部

〒100-0013 東京都千代田区霞が関3-1-1 ☎(03)3581-2196(月～金 9:30～17:45) ホームページ: <http://www.somucho.go.jp/>

平成10年度事業日本参加青年募集担当都道府県主管課一覧

都道府県	主管課名	電話番号	募集期間	中間選考日
1 北海道	総務部知事室国際課 環境生活部文化・青少年室 (国際青年の村のみ)	011-231-4111 (内21-213) 011-231-4111 (内24-513)	2/23 ~ 4/17	書類選考
2 青森県	環境生活部青少年課	0177-34-9225 (直通)	3/9 ~ 4/10	4/24
3 岩手県	生活環境部青少年女性課	019-651-3111 (内2772)	3/1 ~ 4/15	5/6
4 宮城県	環境生活部青少年課	022-211-2559 (直通)	3/1 ~ 4/7	4/27
5 秋田県	生活環境部青少年女性課	0188-60-1552 (直通)	3/9 ~ 4/10	4/23
6 山形県	文化環境部県民生活女性課青少年女性室	0236-30-2101 (直通)	3/10 ~ 4/11	4/24
7 福島県	生活環境部青少年女性課	0245-21-7187 (直通)	3/9 ~ 4/10	4/24
8 茨城県	福祉部女性青少年課	029-221-8111 (内2744)	3/10 ~ 4/10	4/25
9 栃木県	生活環境部女性青少年課	028-623-3075 (直通)	3/2 ~ 4/1	4/28
10 群馬県	教育委員会事務局青少年課	027-223-1111 (内4143)	3/9 ~ 4/8	4/17
11 埼玉県	環境生活部青少年課	048-830-2912 (直通)	3/23 ~ 4/3	4/21
12 千葉県	社会部青少年女性課	043-223-2396 (直通)	3/2 ~ 3/31	4/21
13 東京都	教育庁生涯学習部社会教育課 生活文化局女性青少年部青少年課 (国際青年の村のみ)	03-5321-1111 (内54-442) 03-5321-1111 (内29532)	3/2 ~ 3/20 (郵送) 3/24 ~ 3/25 (窓口)	4/5
14 神奈川県	県民部青少年室	045-201-1111 (内3477)	3/9 ~ 3/31	4/29
15 新潟県	福祉保健部児童家庭課	025-285-5511 (内2512)	3/9 ~ 4/6	4/22
16 山梨県	企画県民局青少年女性課	0552-23-1357 (直通)	3/13 ~ 4/13	4/24
17 長野県	社会部青少年家庭課	026-235-7130 (直通)	3/3 ~ 4/3	4/16
18 静岡県	教育委員会事務局青少年課	054-221-3312 (直通)	3/13 ~ 4/13	4/22
19 富山県	生活環境部女性青少年課	0764-44-3138 (直通)	3/6 ~ 4/6	4/28
20 石川県	県民文化局女性青少年課	076-223-9111 (直通)	3/20 ~ 4/20	4/26
21 福井県	県民生活部青少年女性課	0776-21-1111 (内2361)	3/10 ~ 4/10	4/24
22 愛知県	総務部青少年女性室	052-961-2111 (内2354)	3/23 ~ 4/15	書類選考
23 三重県	生活文化部青少年女性課	059-224-2406 (直通)	3/11 ~ 4/10	4/22
24 岐阜県	総務部青少年国際課	058-272-0810 (直通)	3/9 ~ 4/13	4/24
25 滋賀県	教育委員会事務局生涯学習課青少年対策室	077-528-4661 (直通)	3/9 ~ 4/9	4/19
26 京都府	府民労働部青少年課	075-414-4306 (直通)	3/20 ~ 4/13	4/24
27 大阪府	生活文化部青少年課	06-941-0351 (内4844)	3/2 ~ 4/3	4/17
28 兵庫県	闘兵庫県青少年本部青少年交流担当	078-360-8581 (直通)	3/13 ~ 4/10	4/26
29 奈良県	生活環境部青少年課	0742-22-1101 (内3345)	3/1 ~ 3/20	書類選考
30 和歌山県	生活文化部青少年課	0734-41-2503 (直通)	3/2 ~ 4/3	4/19
31 鳥取県	企画部女性青少年課	0857-26-7076 (直通)	3/11 ~ 4/21	書類選考
32 島根県	健康福祉部青少年家庭課	0852-22-6255 (直通)	3/5 ~ 4/10	4/23
33 岡山県	企画部女性青少年対策室青少年課	086-224-2111 (内2543)	3/11 ~ 4/10	4/22
34 広島県	県民生活部青少年女性課	082-228-2111 (内2937)	3/10 ~ 4/10	4/24
35 山口県	環境生活部女性青少年課	0839-33-2634 (直通)	3/12 ~ 4/11	4/24
36 徳島県	企画調整部青少年室	0886-21-2204 (直通)	3/16 ~ 4/17	4/26
37 香川県	生活環境部青少年女性課	087-831-1111 (内2434)	3/5 ~ 4/21	5/9
38 愛媛県	県民福祉部児童福祉課	089-941-3434 (直通)	3/1 ~ 4/3	4/23
39 高知県	文化環境部国際交流課 健康福祉部児童家庭課(国際青年の村のみ)	0888-23-9605 (直通) 0888-23-9637 (直通)	3/12 ~ 4/16	4/23
40 福岡県	企画振興部県民生活局青少年対策課	092-641-4740 (直通)	3/9 ~ 4/10	4/22
41 佐賀県	福祉保健部児童青少年課	0952-25-7055 (直通)	3/14 ~ 4/14	4/28
42 長崎県	教育庁生涯学習課	095-824-1111 (内3366)	3/13 ~ 4/15	4/24
43 熊本県	環境生活部県民生活総室	096-383-1111 (内7409)	4/1 ~ 4/15	4/21
44 大分県	生活環境部女性青少年課	0975-36-1111 (内3045)	3/10 ~ 4/13	4/22
45 宮崎県	企画調整部女性青少年課	0985-26-7063 (直通)	3/2 ~ 4/17	5/1
46 鹿児島県	環境生活部青少年女性課	099-286-2557 (直通)	3/2 ~ 4/3	4/22
47 沖縄県	生活福祉部青少年・交通安全課	098-866-2182~84 (直通)	3/9 ~ 4/20	4/30

* 都道府県レベルでの試験方法、手続きは異なりますので、受験該当地で確認して下さい。

芸を磨こう!!

— のりのり岡山青年国際交流会 — 芸能チーム活動レポート

岡山青年国際交流会副会長
村木実由紀

最近、当会会員の間で芸を身につけることが、非常に流行っています。元々、芸を持った会員が多い当会であるが、今年度は、会員同士が盛り上がり、有志の「南京玉すだれチーム」と「和太鼓チーム」を結成、相次いでデビューしました。

南京玉すだれ

南京玉すだれチームは、当会が今年度初めて、JICA 青年招へい事業を受入れることになり、その受入実行委員会中に生まれたチームです。

あ、さて、あ、さて、あ、さて、さて、さて。初舞台は11月のJICA青年招へい事業で来岡のアセアン青年送別会。毎週練習を重ね、私たちの歌声入りオリジナルテープも準備。揃いのはっぴに揃いの頭巾、腰巻きで気合も十分にデビューしました。

私たちの芸に感化された(?)インドネシアとタイの青年が、現在「南京玉すだれ」を、自国で練習中。初舞台は成功を納め、味をしめた私たちは、続いて1月の岡山県招へい来県南米青年のお別れパーティーにも出演しました。



現在は、英語バージョンの歌と芸を創作するかたわら、海外公演を企んで夢を膨らませています。

和太鼓

和太鼓は当会主催のパーティーなどでも、大変人気があり、知り合いに演奏を依頼することが多くありました。和太鼓の演奏が当会メンバーにより出来たらいいのという声が常々あり、太鼓を習いたいという声も多々ありました。その声が実現に向けて動き始めたのは、岡山県からブラジル・アルゼンチン・ペルーの青年を招へいする事業を当会が委託受入し、準備を進めていたときでした。小田郡矢掛町にある、矢掛本陣太鼓保存会の皆さんに教えを請い、週4回のハードな練習をパワーでこなし、みんなの心配をよそにあっていう間に上達した(?)我々は、12月にデビューしました。

当日は、直前まで、リズムを頭のなかで繰り返し繰り返し確認し、ドキドキしていました。本番では、2人の「ばち」が折れるというハプニングもありましたが、それも余興、と気合いをいれて、完奏しました。

矢掛本陣太鼓は、宿場町矢掛に投宿した大名の行列を送りだす様子を表した「お発ちの宴」などのオリジナル曲があり、大太鼓・脇太鼓・小太鼓・チャッパの力強い掛合演奏が見物です。

私たちは青年海外派遣事業の事後活動を通じてお互いに知り合い、幸運にも、地方伝統芸能の保存と紹介のお手伝いをする機会を得ました。これからも、多くの人々に邦楽(和太鼓)の素晴らし

さを、国際交流活動を通じて知っていただけるようにと己の芸を磨いている毎日です。

今回は以上二つの芸能チームを紹介しましたが、当会では芸能に限らず、会員同士が声を掛け合い、福祉ボランティアや環境問題など多方面に渡って取り組み、興味ある得意分野を開発しつつありま

す。来年度は、ネイチャーゲームの初級指導員資格取得講座も開講予定です。現在、おもしろい人材が集まってお互いを刺激しあい、ますますおもしろい会を目指して前進中。次回レポートも乞うご期待!!

雪乃ちゃんの北京おもしろ観察記

宮下 雪乃

(平成8年度中国派遣団員)

北京の冬はとにかく寒い!! 何が寒いって、日本の、それも東京の冬が生ぬるいと感じてしまう程だから北京の冬は寒い!

第一に、服装。北京の人はそれはそれは重ね着の天才である。上半身は、まず3枚仕立ての厚手の綿の下着シャツを着用し、その上に目が細かくギッチリと編み込まれたセーターを2枚程着込む。(2枚程、と言う事はそれ以上着込んでいる人もいると言うこと)。そしてダウンジャケットを着る。ダウンジャケットを着用しないにしろ、やはり中身に羽毛や綿の詰められたコートを着ないと北京の寒さはとうていしのげない。(私は日本で着るようなごく普通のコートを着ていたら、寮のおばちゃんに「あんたはアホかい!?こんなペラペラの薄いコートを着て!!」とお叱りを受けてしまった。) 下半身も上半身と同様に、3枚仕立ての綿のいわゆる「モモヒキ」をはき、その上にウール100%のズボン下(スパッツの様な物)をはいてからやっと、ズボンをはくことが許される。靴は底の厚い冬用の革靴で、中にフェルト製の中敷きを必ず敷く。靴下は毛糸のそれを2枚はくのが望ましい。そうでもしないと地面からはい上がって

来る冷気に足の指がもげてしまいそうになるからだ。手袋は寒風を遮断する革の手袋もしくはスキー手袋着用着を多々見かける。日本で売られている毛糸の編み込み模様が入った可愛い手袋は、ここ北京では探し出すのが至難の技と聞いた。仕上げは毛糸の帽子とマフラー。北京の女の子の間では帽子とマフラーの柄をお揃いにするのが流行っていると見え、皆思い思いの柄を身にまとっている。(ちなみに私は帽子をかぶらずに街に出て寒さでその晩頭痛がして止まらなかった経験がある。) これだけ着込んでやっと冬の北京の街を歩くことが可能なのだから、いかに北京の冬が寒いことか!!

次に気温。北京の一日の日中最高気温は何と1度。「今日は昨日よりちょっと寒いかな」と思うと零下2度と言うのがザラである。最高気温が零度の上と下を行ったり来たりしている程だから、池には厚い氷が張り、朝目覚めると部屋の窓の内側が氷付き、また太陽が照っていても照っているだけで少しも暖かくはないのである。いうなれば「冷蔵庫の中をあるいている」様な感覚だろうか。こんなに寒くても北京の人はとても元気で、寒風を物ともせず自転車に乗り、厚く張った氷の上で椅子ゾリやスケートに興じ、天安門広場で凧揚げを楽しんでいるのであるから、中国と言う国の秘めたるパワーは計り知れない。(北京に留学中)

事後活動推進全国代表者会議

全国推進会議

平成9年度の全国推進会議は、11月の全国大会前日の11月28日・29日と去る2月21日・22日の2回、それぞれ1泊2日で開催され、日本青年国際交流機構本部役員と各都道府県IYEO代表者によって、活動報告及び活動の在り方が討議されました。

2月の第27回全国推進会議においては本部役員の改選が行われ、4月からの新体制が決まりました。また、平成10年度の活動テーマ及び活動スローガンも決定され、新年度への意欲に燃えた意義ある会議を行うことができました。なお、活動スローガンには、多くの方のご応募をいただきありがとうございました。次号のマクロコズム22号におきまして、活動テーマ及び新役員名簿とともに応募者の方の声を加えて発表させていただきます。

ブロック別海外派遣青年の集い平成10年度開催予定

ブロック名	平成10年度開催県予定	平成10年度開催日	ブロック構成都道府県
北海道・東北	山形県	未定	北海道・青森・岩手・宮城・秋田 山形・福島
関東	千葉県	未定	茨城・栃木・群馬・埼玉・千葉・ 東京・神奈川・山梨
北信越	長野県	未定	新潟・長野・富山・石川・福井
中部	三重県	9月12日～13日	静岡・愛知・岐阜・三重
近畿	和歌山県	7月4日～5日	滋賀・京都・大阪・兵庫・奈良・ 和歌山
中国	山口県	8月1日～2日	鳥取・島根・岡山・広島・山口
四国	徳島県 (全国大会と同時開催)	11月28日～29日	徳島・香川・愛媛・高知
九州	沖縄県	9月19日～20日	福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・ 宮崎・鹿児島・沖縄

全国大会 = IYEO の魅力

静岡 IYEO 國分 由佳

「わー久しぶり。」「元気？」あちらこちらからこんな会話が聞こえてくる。

決してアクセスがよいとは言えない J-VILLAGE に何人くらい集まるのかと不安に思いながら行ってみると、来てる来てる。IYEO にとりつかれた人々が次々と集まっていた。

IYEO の魅力は何といっても、全国各地にちらばっている会員である。まず、上は 60 歳近い人から現役の学生まで年齢層が広い。そして職業は様々。農業をやっている人から、芸術家もいれば男の家庭科の先生もいる。会社員、公務員、銀行員等々。その上みんな個性が強い。話題もいろいろで、地域の話も聞けるし、その分野でなければ知り得ない秘密の会社情報を得られることもある。とにかく面白い。そういう、自分に何かを持っている人々が、この全国大会には集まってくるのだ。

こんな団体が他にあるだろうか。最近のボラティア熱を背景に多くの団体が存在しているが、世代や職業が偏っていたり、地域が狭かったり、IYEO ほど誰でも受け入れている団体は少ないのではないか。

そして近年、IYEO は国内のみならず、世界へ同窓会組織をたちあげ、ネットワークづくりに励んでいる。数年後には世界中にネットワークが広がって巾広い人の輪をつくり上げるであろう。

今回の福島の大会で印象的だったのは、福島 IYEO メンバーの団結力である。常に笑顔で対応し、親切。スタッフの年齢の幅が広く、若い人も

一線を退いた人もそれぞれの持ち場で自分ができることを精一杯していた。そして終始和やかムード。地域のコネクションをフルに活用し、スポンサーを見つけ、参加者にプレゼントしてくれたり、ホスピタリティーにあふれていた。

2 日目のミニサッカー大会では、年齢を忘れてボールを追って走り回り、多くの人が翌日筋肉痛になったことだろう。今回は、従来と違い 1 日目の講演会も小グループに分けて行われ、受け身ではなく、参加型のプログラムになっていてよかったと思う。

年に一回の全国大会というお祭りは、私に多くの刺激を与えてくれた。足腰は痛かったけれど、明日から私も頑張るぞーという元気の素をもらった気がする。



▲ 福島の宗像会長と静岡三人娘（筆者右端）

お知らせ

第17回青少年国際理解セミナー

「第24回東南アジア青年の船」帰国報告会

平成9年度の「第24回東南アジア青年の船」参加青年による帰国報告会が下記の日程で行われます。総務庁青少年国際交流事業について知りたいと思っている友人知人の方々に、ぜひ知らせてあげてください。平成10年度の募集についての情報コーナーも設けています。事業に応募しようとしている方にとっては選考試験の情報収集のためにも見逃せないチャンス。

日 時：1998年3月15日(日) 12:30～16:30
会 場：国立オリンピック記念青少年総合センター 国際交流館 国際会議室
参加費：無料

主な内容：アセアン各国での活動を撮影した写真や団員が持ち帰った品々の展示、ビデオ上映、事業体験談発表、グループ別懇談等のプログラムに各国のお茶やお菓子を楽しみながら参加していただきます。

申込み：(財)青少年国際交流推進センターの「セミナー係」まで電話、FAX又は葉書にてお申込み下さい。宛先は、下欄の(財)青少年国際交流推進センター事務局へ。

平成10年度は、徳島にて全国大会!

平成10年度の日本青年国際交流機構第14回全国大会は、に徳島県で開催されることに決定しました。明石海峡大橋の開通を記念して、徳島県IYEOのメンバーが頑張ります。

日 程：11月28日(土)～29日(日) 会 場：徳島県鳴門市「ルネッサンス リゾート ナルト」

編集後記

長野オリンピックでは、日本の選手も頑張りました。オリンピックは参加するものといっても、勝利は嬉しいですね。平和の象徴オリンピックを
自国で開催できる幸せを認識したいと思います。平和が世界のものとなりましように。平和を広げられる国際交流活動に取り組みたいですね。

*本誌の年間講読をご希望の方は、(財)青少年国際交流推進センターまで葉書又はFAXにてお申込み下さい。年間講読料は1,500円です。

<p>MACROCOSM (マクロコズム) 3月号 Vol.21</p> <p>編集：マクロコズム編集委員会</p> <p>発行：財団法人 青少年国際交流推進センター</p> <p>〒103-0013 東京都中央区日本橋人形町2-35-14</p> <p>TEL 03-3249-0767</p> <p>FAX 03-3639-2436</p> <p>e-mail LDP04056@niftyserve.or.jp</p>	<p>1998年3月1日発行(隔月発行)</p> <p>編集協力：総務庁青少年対策本部 日本青年国際交流機構</p> <p>定 価：198円(本体189円)</p> <p>印刷所：株式会社 絢文社</p> <p>TEL 03-3959-3960</p>
--	--

日中国交正常化25周年記念

中国青少年指導者等招へい沖縄プログラム (1997.12.9 ~ 12.13)



石敢当

○…総務庁主催の日中
青年交流事業に参加して
いる中国からの研修生十
九人が九日、地方研修の
ため来県し、歓迎式が那
覇空港で開かれた。写真
に出会ってほしい」とあ
いさつした。

○…リュ
ウ・ホア
団長は「熱
烈な歓迎あ
りがとう」
と感謝の言
葉を述べ、
「沖縄の青
年たちが経
済建設のた
めに頑張る
姿を見た
い」と意欲
を話した。

真。一行は施設見学やホ
ームステイなどをし、十
三日に帰国する。

○…式では県生活福祉
部青少年・交通安全課の
垣花みち子課長が「沖縄
の歴史や文化に触れなが
ら多くの『ちよーでー』

◀ 沖縄タイムスより
(1997.12.10付 夕刊)



▲ 沖縄県庁に表敬訪問。大城生活福祉部長と懇談

▼ 平和記念資料館の記念碑前にて



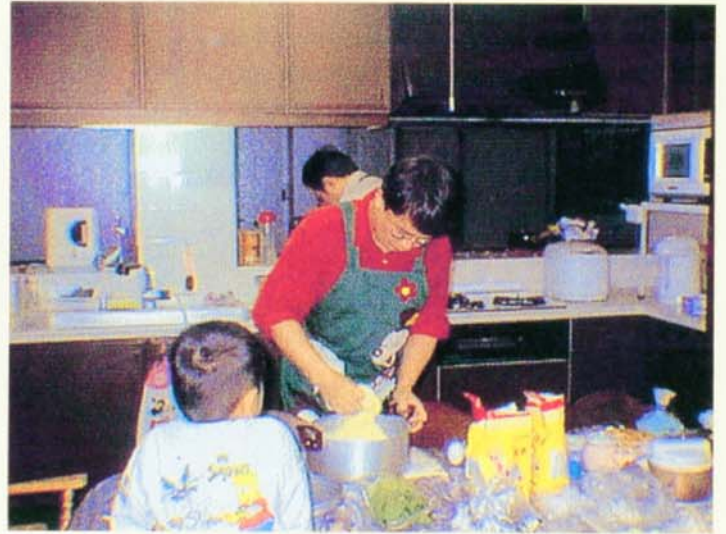
様々な郷土芸能が演じられ、中国のメンバーからは美しい合唱で中国の歌が披露されました



▲ ホームステイマッチング会場にて



〈金城家と中国青年との合作料理〉



再 見!!

空港でのお見送り。
さみしいけれど、
きっと又会えますね

